

報告書

第2回  
京都市の芸術家等の  
活動状況に関する  
アンケート調査結果について



## 目次

- 3 このアンケートについて
- 4 調査概要
- 5 ポイント
  - Pont 1 損失について
  - 6 Pont 2 現在困っていることについて
  - 7 Pont 3 京都市の支援策について
  - 8 Pont 4 現状に必要な支援策について
- 9 基礎情報
  - 居住地
  - 制作拠点
  - 10 発表・活動拠点
    - 年齢
    - 性別
  - 11 生業として行っているか
    - 文化芸術活動とは別の仕事
    - 生業・非生業の区別と専業・兼業の区別
  - 12 表現分野（8分野）
  - 13 業務内容・形態（5分類）
- 14 新型コロナウイルスの影響と収入損失について
  - 損失金額の規模（表現分野別）
  - 15 イベント等の延期中止により生活費が困難だった時期
    - 現時点で収入が改善しているか
  - 16 現時点で収入が改善しているか（表現分野別）
    - 現時点で収入が改善しているか（業務分野別）
  - 17 現在困っていること
- 18 京都市の文化芸術支援プログラムについて
  - 京都市の支援プログラムの周知について（知っていたもの）
  - 19 希望する支援内容との合致
    - 希望する支援内容との合致（表現分野別）
    - 合致しなかった理由
- 20 支援プログラムは活動再開につながったか
  - 現状においてどのような支援が必要か
- 21 現状において、どのような支援が必要か（表現分野別）
- 22 現状において、どのような支援が必要か（業務分野別）
- 23 京都市芸術文化活動緊急奨励金について
  - 申請したか
  - 24 申請した理由
    - 満足度
- 26 京都市文化芸術総合相談窓口について
  - 利用したか
  - 満足度
  - 京都市文化芸術活動再開への挑戦サポート交付金について
  - 利用したか
  - 満足度
- 27 京都市文化芸術活動再開への発表・鑑賞拠点継続支援金について
  - 利用したか
  - 満足度
  - オンライン配信へのサポートについて
  - 参加したか
  - 満足度
- 28 感染拡大防止と文化芸術活動の両立支援補助金（施設使用料等補助）について
  - 申請したか
  - 満足度
  - 感染拡大防止と文化芸術活動の両立支援補助金（感染拡大防止等経費補助）について
  - 申請したか
  - 満足度
- 29 自由記述から
  - 1. 今回の支援
  - 31 2. 今後の京都市の文化政策に関する意見
  - 32 3. その他
- 33 本アンケート調査の総括

京都市では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、発表・制作等の機会を失っている文化芸術関係者の活動を支援するため、令和2年(2020年)4月に「京都市文化芸術活動緊急奨励金」を創設し、全国に先駆けて文化芸術関係者への支援策を開始しました。

5月には、「京都の芸術家等の活動状況に関するアンケート」を実施し、文化芸術関係者の活動状況やニーズを把握のうえ、7月に「京都市文化芸術総合支援パッケージ」による支援を開始。京都芸術センターでの総合相談窓口の開設、文化芸術活動の再開支援のためのふるさと納税型クラウドファンディング(挑戦サポート交付金・発表鑑賞拠点継続支援金)、オンライン配信サポートなどを順次実施しています。また、10月には感染拡大防止と文化芸術活動の両立支援補助金を創設するなど、文化芸術関係者の活動を後押しする様々な支援策を展開してきました。

そして、令和3年(2021年)1月から2月にかけて、第2回のアンケートを実施しました。今回は、5月の第1回アンケート以降の活動状況、現状におけるニーズに加え、この間の本市の支援策についても、文化芸術関係者から御意見を頂きました。

第1回、第2回のアンケート結果からは、文化芸術関係者の損失は拡大を続け、「創作等の機会の喪失」、「技術提供等の仕事の喪失」「生計が立てられない」という状況にある方も多く、必要な支援策として「損失補填」「事業資金支援」「活動機会・場づくり」や、自由意見からも「継続的な支援」を求める声を頂戴しています。

本市の支援策に関しては、「文化芸術活動緊急奨励金」「文化芸術活動の再開支援のためのふるさと納税型クラウドファンディング(挑戦サポート交付金・発表鑑賞拠点継続支援金)」などについて8割以上の方が満足され、支援策全体として7割以上の方が「活動継続・再開に繋がった」と回答いただいておりますが、広報や支援対象など、更なる改善・検討が必要な点も多々あることが明らかになりました。

「文化芸術活動緊急奨励金」を申請した理由として「意欲を奮い立たせる」の回答が「活動再開を目指す」に続き、50%近くとなりました。自由意見でも「(文化芸術が)不要不急と言われるのが一番つらい」という悲痛な叫びが寄せられています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が更に長期化を見せる中、人々に感動や精神的な安らぎ、生きる喜びをもたらし、人生を豊かにする文化芸術の役割は益々高まっており、決して不要不急のものではありません。そして、一連のアンケート結果からも、文化芸術関係者の皆様への継続的な支援の必要性が示されています。本市財政は危機的な状況ですが、皆様からお寄せいただいた切実な声を真摯に受け止め、今後の施策の検討・実現につなげてまいります。

## 調査概要

回答期間	2021年1月14日～2月2日(20日間)
調査実施者	京都市(実施受託:京都芸術センター〈公益財団法人京都市芸術文化協会〉)
調査対象	京都市内に居住あるいは拠点をもつ芸術家及び文化芸術を支える個人
調査方法	インターネット調査(一部、郵送調査)
回答数	1,211件
有効回答数	1,154件
調査設計・分析協力	大澤寅雄(ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員、NPO法人アートNPOリンク理事長) 樋口貞幸(大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員) 中川眞(大阪市立大学都市研究プラザ特任教授) 吉澤弥生(共立女子大学文芸学部教授)
報告書発行	京都市、京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)

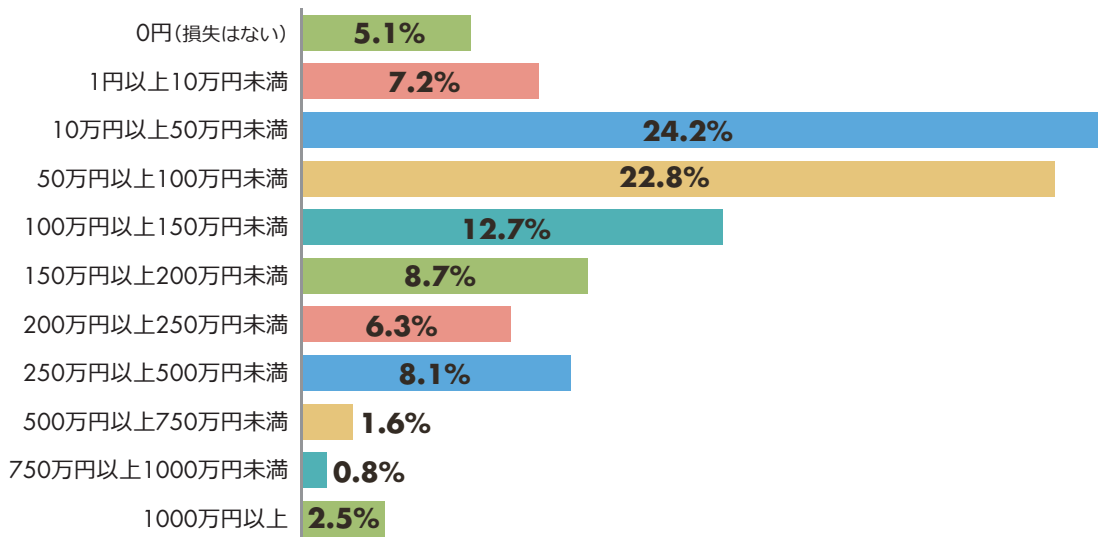
POINT

1

## 損失について

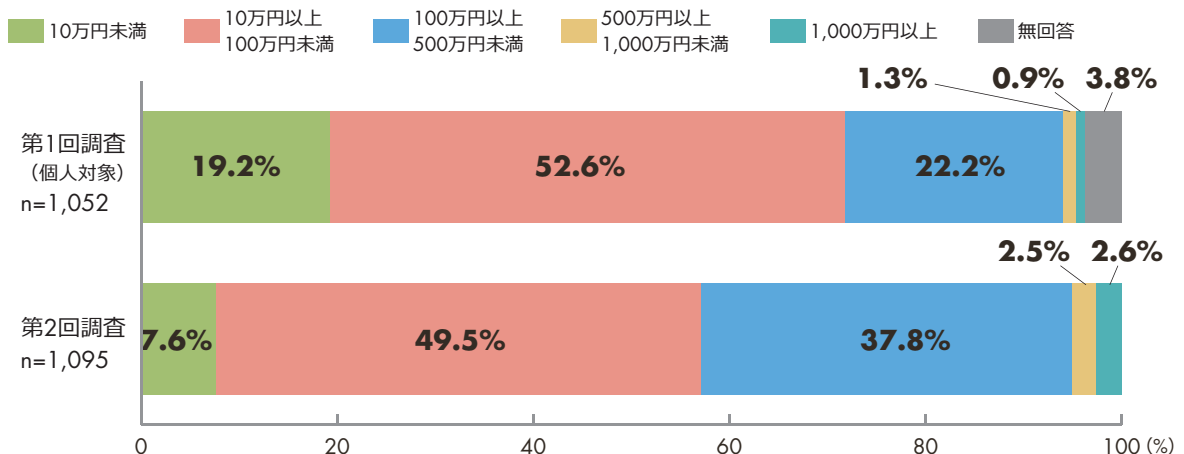
新型コロナウイルス感染症の影響による収入損失の金額規模は、2020年とコロナ以前となる2019年を比べて、「10万円未満」が12%、「10万円以上100万円未満」が47%、「100万円以上」が41%となった。2020年2月～8月までの収入損失(予想を含む)を調査した第1回調査との比較で、「100万円以上500万円未満」及び「500万円以上1,000万円未満」の損失の回答割合が増加していることから、徐々に損失が拡大している可能性がある。

**2019年の1年間(1月から12月まで)の収入と比べて、  
新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた2020年(1月から12月まで)の収入損失の金額規模**



n=1,154

### 第1回調査と第2回調査との比較



## 現在困っていることについて

新型コロナウイルス感染症の影響により現在困っていることは、「創作発表の機会が失われた」が75%、「技術提供や指導などの仕事の機会が失われた」が47%、「生計が立てられない(生活収入の減少)」が41%、「創作意欲が湧かない(メンタルヘルスの不調)」が25%、「活動の継続や再開に対する批判やクレームが不安である」が24%であった。「仕事の消失」「生活の維持」「心身の不調」の順に回答の割合が高い傾向が見られた(詳細はP.17)。これは、第1回調査の結果と同一の傾向を示し、半年を経ても同様の課題が引き続いており、仕事の回復や生活不安は解消されているとはいえない。

### 新型コロナウイルスの影響により、現在困っていること(複数回答)

第1回調査(n=1,122)

1位	創作発表の機会が失われた	81.1%
2位	生計が立てられない(生活収入の減少)	53.9%
3位	職務研修や技芸の指導・研鑽ができない	28.6%
4位	創作意欲が湧かない(メンタルヘルスの不調)	24.7%
5位	事務所、施設等の維持ができない	24.7%

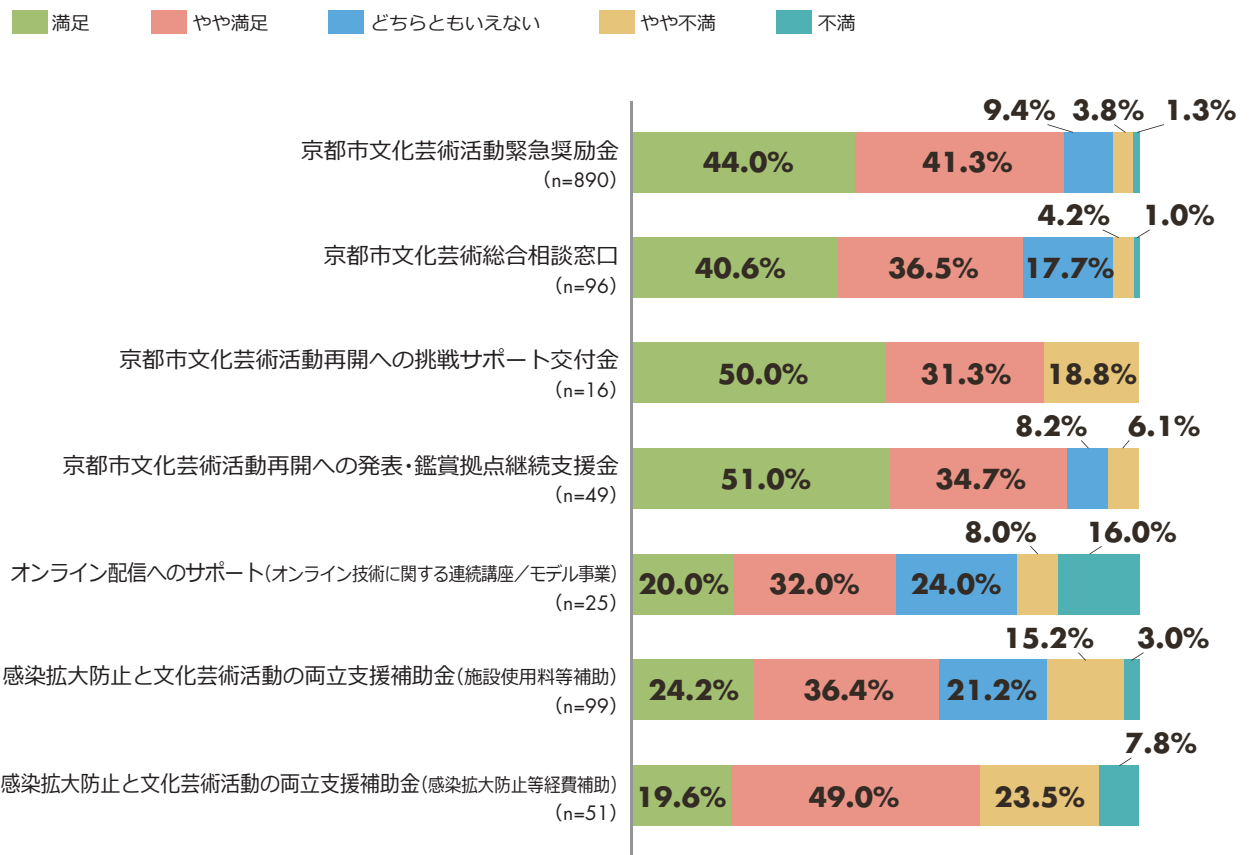
第2回調査(n=1,154)

1位	創作発表の機会が失われた	75.2%
2位	技術提供や指導などの仕事の機会が失われた ※第2回調査のみの選択肢	47.2%
3位	生計が立てられない(生活収入の減少)	40.7%
4位	創作意欲が湧かない(メンタルヘルスの不調)	24.7%
5位	活動の継続や再開に対する批判やクレームが不安である ※第2回調査のみの選択肢	24.2%

## 京都市の支援策について

京都市が行った各支援策の満足層(満足+やや満足)について、「文化芸術活動発表鑑賞拠点支援金」が86%、「文化芸術活動緊急奨励金」が85%、「挑戦サポート交付金」が81%、「総合相談窓口」が77%と高い割合だったが、「両立支援補助金(感染防止等経費補助)」は69%、「両立支援補助金(施設使用料等補助)」は61%、「オンライン配信サポート」は52%に留まった。京都市が行う文化芸術活動の支援プログラムは「希望する(必要とする)支援と合致していたか」を聞いたところ、「はい」が62%、「どちらともいえない」が31%、「いいえ」が7%。また、「文化芸術活動の継続または再開につながったか」を聞いたところ、「はい」が71%、「どちらともいえない」が25%、「いいえ」が4%となり、総合的には、一定の評価を頂いたものの、支援の対象範囲などについて引き続き検討が必要である。

### 京都市が行う文化芸術活動の支援プログラムの満足度



## 現状で必要な支援策について

「公演、展示、イベント等の延期または中止による損失補填の支援」が46%（第1回54%）、「文化芸術活動の再開・新規展開に向けた事業資金支援」が41%（同44%）、「文化芸術活動の機会・場づくり」が40%（同36%）で、引き続き高い傾向を示し、次いで「支援策に関する相談・情報提供」が21%（同25%）となっている。「オンライン展開のための支援」は18%（同32%）と落ち着いたが、第1回調査から半年以上を経過してなお、上位3件について必要な支援策の変化が見られず、包括的な支援が現在も求められている（詳細はP.20）。

### 現状で必要な文化芸術活動の支援策(3つまでの複数回答)

第1回調査(n=1,122)

1位	公演、展示、イベント等の延期または中止による損失補填の支援	53.7%
2位	文化芸術活動の再開・新規展開に向けた事業資金支援	43.9%
3位	文化芸術活動を活かした機会・場づくり	35.7%
4位	文化芸術活動のオンライン展開のための支援	32.4%
5位	支援策に関する相談・情報提供	25.3%

第2回調査(n=1,154)

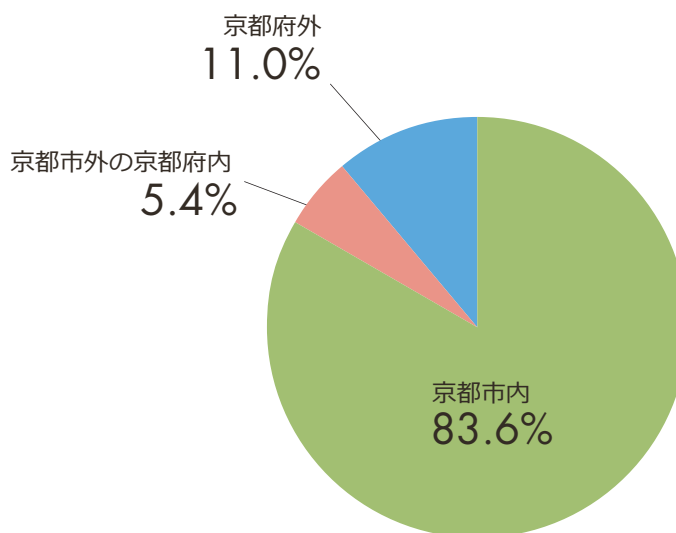
1位	公演、展示、イベント等の延期または中止による損失補填の支援	46.0%
2位	文化芸術活動の再開・新規展開に向けた事業資金支援	41.2%
3位	文化芸術活動の機会・場づくり	39.7%
4位	支援策に関する相談・情報提供(融資、支援サービスの手続きに関する相談等)	20.7%
5位	文化芸術活動の再開・新規展開に向けた設備資金支援	19.8%



回答者のうち、京都市内に制作拠点を持っていると回答した者が9割で、京都市に居住する割合と京都市で発表・活動をしている回答がそれぞれ8割となっている。市内に制作拠点をもつ者の割合が居住に比べて高いのは、京都市の地域特性と言える。京都市以外の居住地は、大阪府、滋賀県、東京都、兵庫県の割合が高かった。発表・活動場所は、京都市以外では、関西圏以外の国内が9%、京都市府以外の関西圏が6%、海外が3%の回答となっている。

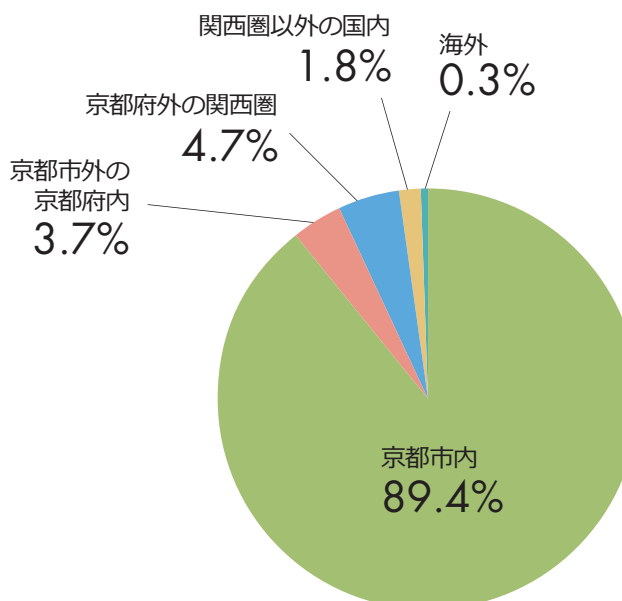
## 居住地

	件数
京都市内	965
京都市外の京都府内	62
京都府外	127
総計	1,154



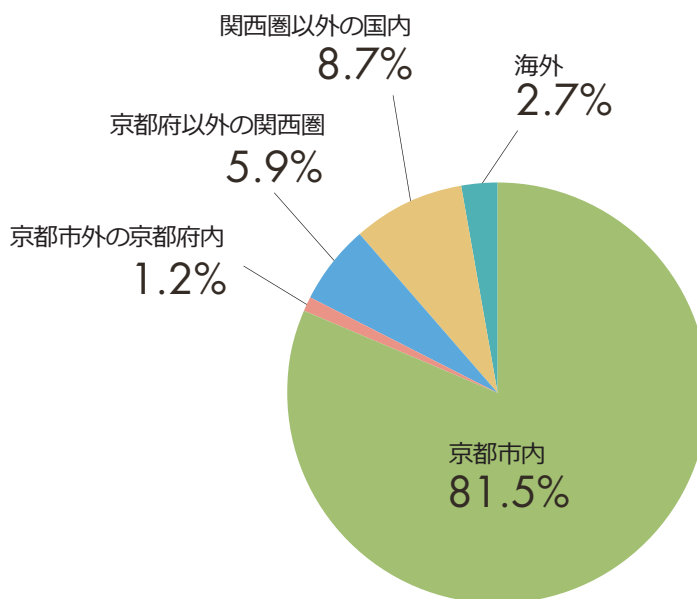
## 制作拠点

	件数
京都市内	1,032
京都市外の京都府内	43
京都府以外の関西圏	54
関西圏以外の国内	21
海外	4
総計	1,154



## 発表・活動拠点

	件数
京都市内	941
京都市外の京都府内	14
京都府以外の関西圏	68
関西圏以外の国内	100
海外	31
総計	1,154



年齢は30歳代が最も多く35%、次いで40歳代が28%、50歳代が15%、20歳代が13%となった。性別は男性が56%、女性が43%となっており、男性が比較的多かった。

回答者が、文化芸術活動を生業として行っているか聞いたところ、「はい」と答えた人が86%、「いいえ」が14%だった。生業として行っている（「はい」と回答した場合、「文化芸術活動のみに従事している」が60%、「文化芸術活動とは別に仕事をしている」が41%だった。文化芸術を生業とし、かつ文化芸術活動のみに従事する人（生業かつ専業）が回答者の51%で、文化芸術は生業としていない、もしくは生業ではあるが別に仕事をしている（非生業または兼業）の回答者が49%となった。

## 年齢

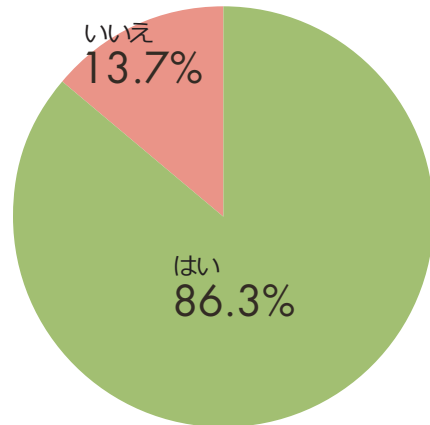
	件数	割合 (%)
20歳代以下	117	13.1
30～50歳代	685	76.9
60歳代以上	89	10.0
総計	891	100.0

## 性別

	件数	割合 (%)
女性	451	42.5
男性	598	56.4
その他	11	1.0
総計	1,060	100.0

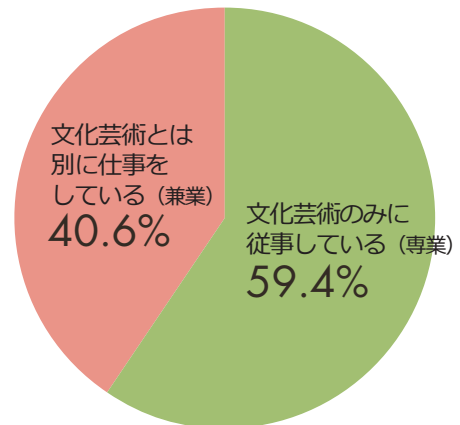
## 生業として行っているか

	件数	割合(%)
はい	996	86.3
いいえ	158	13.7
総計	1,154	100.0



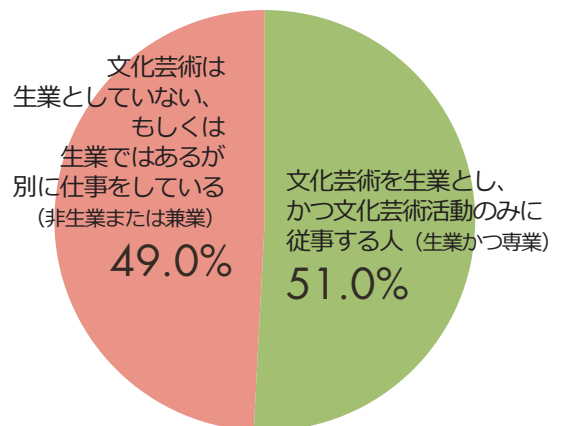
## 文化芸術活動とは別の仕事

	件数
文化芸術のみに従事している(専業)	592
文化芸術とは別に仕事をしている(兼業)	404
総計	996



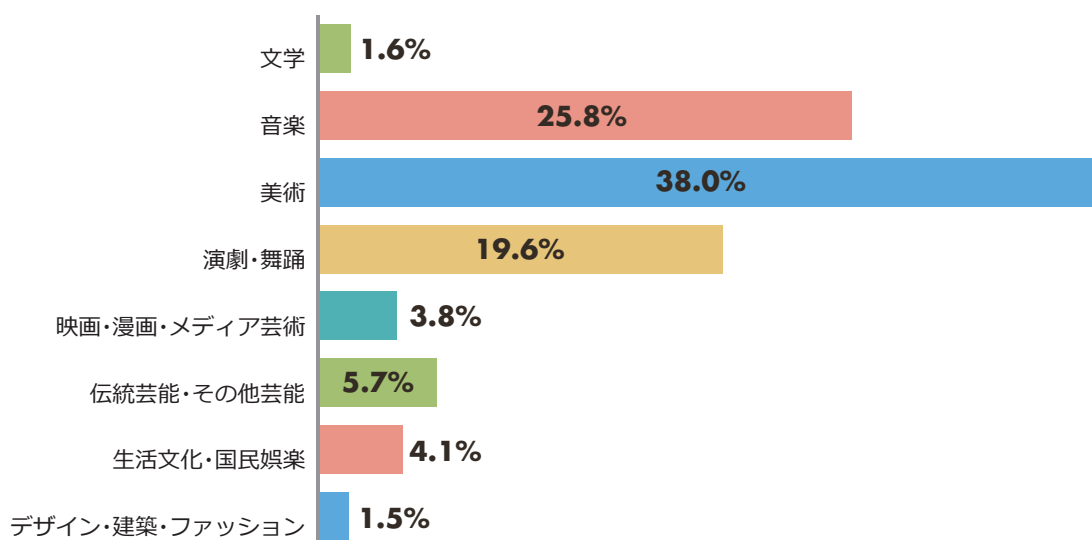
## 生業・非生業の区別と専業・兼業の区別

	件数
文化芸術を生業とし、かつ文化芸術活動のみに従事する人(生業かつ専業)	592
文化芸術は生業としていない、もしくは生業ではあるが別に仕事をしている(非生業または兼業)	562
総計	1154



表現分野では、最も多いのが「美術」で38%、次いで「音楽」26%、「演劇・舞踊」20%、「伝統芸能・その他芸能」6%、「生活文化・国民娯楽」と「映画・漫画・メディア芸術」が4%となった。アンケートの取りまとめ先、情報提供先が、京都芸術センターであったことから、平常時からコミットメントの高い分野からの回答が比較的多く寄せられたと考えられる。業務内容・形態では、最も多いのが「創作発表・販売」で57%、次いで教育研究が15%、企画制作が12%、技術提供が10%、施設運営が6%となった。

## 表現分野〈8分野〉



n=1,154

**文学**：小説、戯曲、随筆・詩・俳句・短歌・連句、評論・批評、その他文学

**音楽**：クラシック音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽等）、ポピュラー音楽（ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲等）、邦楽（琴、三味線、尺八、笛・声明等）、エレクトロニカ・電子音楽、民族音楽、その他の音楽

**美術**：造形（絵画、版画、彫刻）、工芸（陶芸、書、染織、クラフト）、写真・映像、パフォーマンス（舞踊、演劇以外の身体芸術）、複合芸術・アートプロジェクト、その他の美術

**演劇・舞踊**：演劇（現代演劇、人形劇、ミュージカル）、舞踊（バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンス）、ストリートダンス、ジャズダンス、民族舞踊（フラダンス、サルサ、フラメンコ等）、社交ダンス、その他の舞台芸術

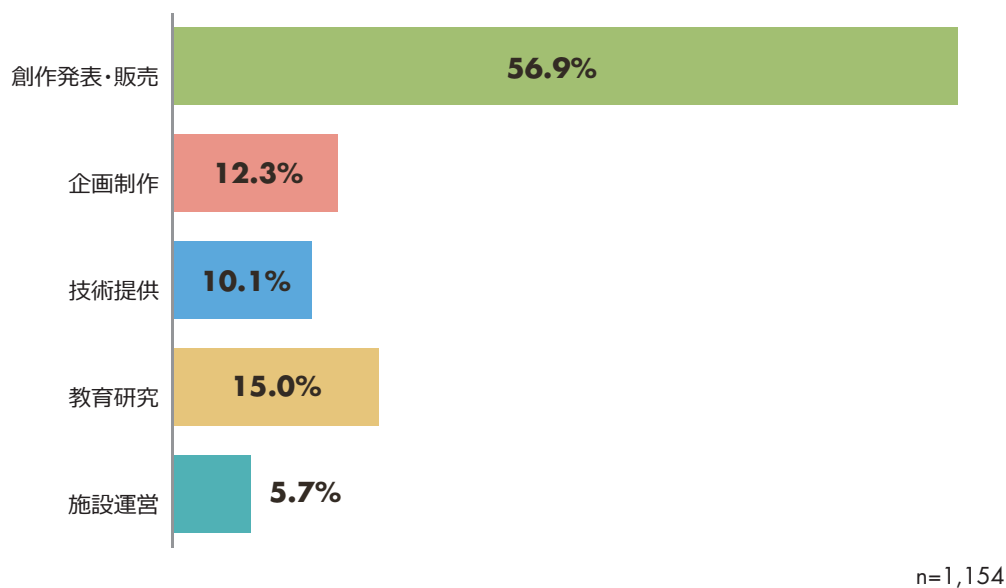
**映画・漫画・メディア芸術**：映画（アニメを除く）、アニメーション、漫画、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）、その他のメディア芸術

**伝統芸能・その他芸能**：雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊、日本舞踊、講談、落語、浪曲、漫才・漫談、その他の芸能

**生活文化・国民娯楽**：茶道、華道、フラワーアレンジメント、書道、香道、食文化、国民娯楽（囲碁・将棋等）、その他の生活文化

**デザイン・建築・ファッション**：グラフィックデザイン・ウェブデザイン、建築設計・インテリアデザイン、プロダクトデザイン、ファッション・服飾、その他のデザイン

## 業務内容・形態〈5分類〉



**創作発表・販売**：音楽や舞台芸術・映画・アニメ等の作品創作、音楽や舞台芸術・映画・アニメ等の出演、美術やメディア芸術等の作品創作・発表、その他の創作・発表・販売・演出

**企画制作**：プロデューサー・ディレクター、キュレーター・ギャラリスト(企画)、マネージャー・プロモーター、コーディネーター・中間支援、その他の企画制作

**技術提供**：照明技術、音響技術、舞台技術・舞台管理、道具・衣装製作、展示設営、撮影・編集・プログラミング、デザイン、通訳・翻訳、その他の技術提供

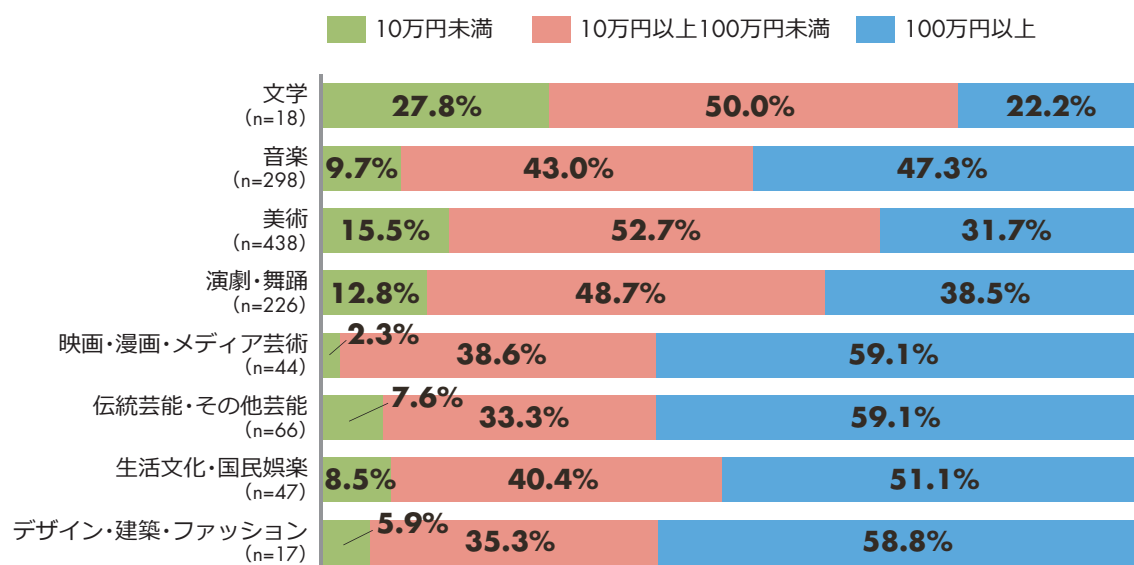
**施設運営**：ホール・劇場、美術館・博物館、映画館、ギャラリー・古物商、ライブハウス・クラブ、スタジオ・アトリエ・教室、その他の施設運営

**教育研究**：教室等の指導者、専修学校・養成所指導者、大学・高等学校の専任教員、批評家・研究者、その他の教育研究

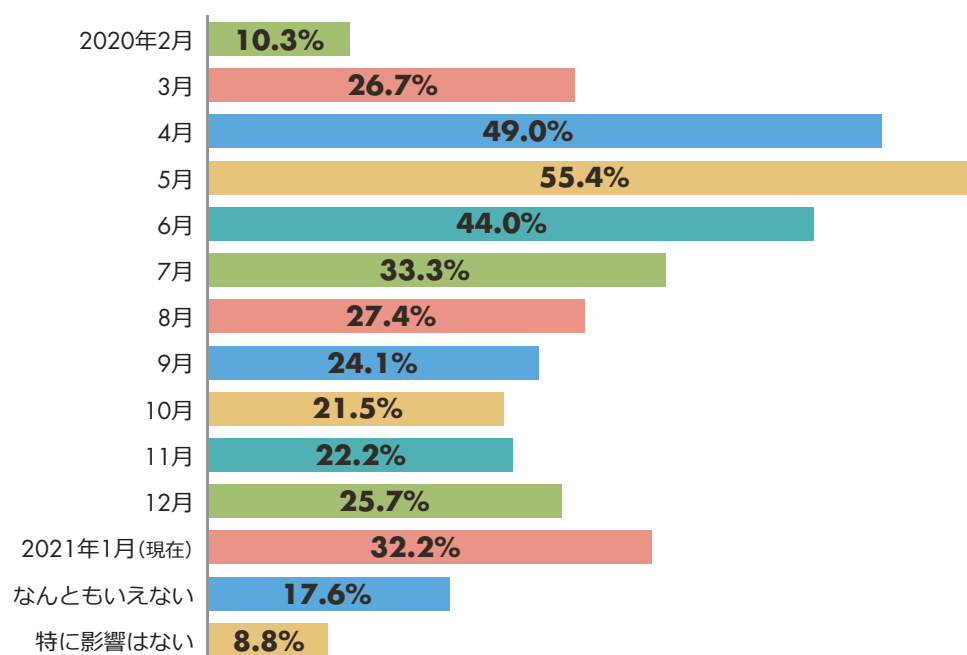
収入損失の規模を表現分野別で見ると、「100万円以上」の収入損失の回答が50%を越えているのが「伝統芸能・その他芸能」、「映画・漫画・メディア芸術」、「デザイン・建築・ファッション」、「生活文化・国民娯楽」となった。なお「2019年度と比較した損失金額の規模」については、ポイント1(P.5)を参照されたい。また、イベント等の延期または中止により、生活費の確保が困難だった時期(月)は、最も割合が多いのは「2020年5月」で55%、次いで「2020年4月」が49%、「6月」が44%、「7月」が33%となっており、10月以降増加して「2021年1月(現在)」が32%となった。また、生活費の確保が困難になった時期に比べて、現時点の収入状況は「改善していない」が68%で「改善している」の33%を大きく上回った。

業務分野別で見ると、「100万円以上」の収入損失の回答が50%を越えているのが「施設運営」と「技術提供」となった。「施設運営」は「100万円以上」の収入損失が76%となっている。

## 損失金額の規模〈表現分野別〉

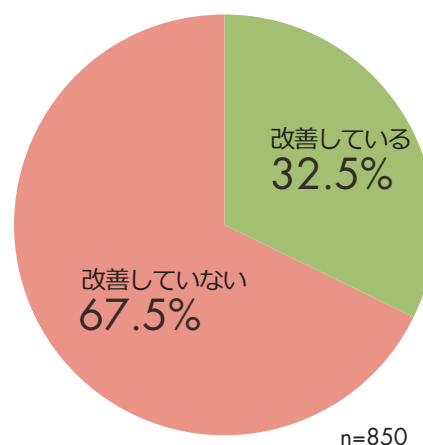


## イベント等の延期中止により生活費が困難だった時期



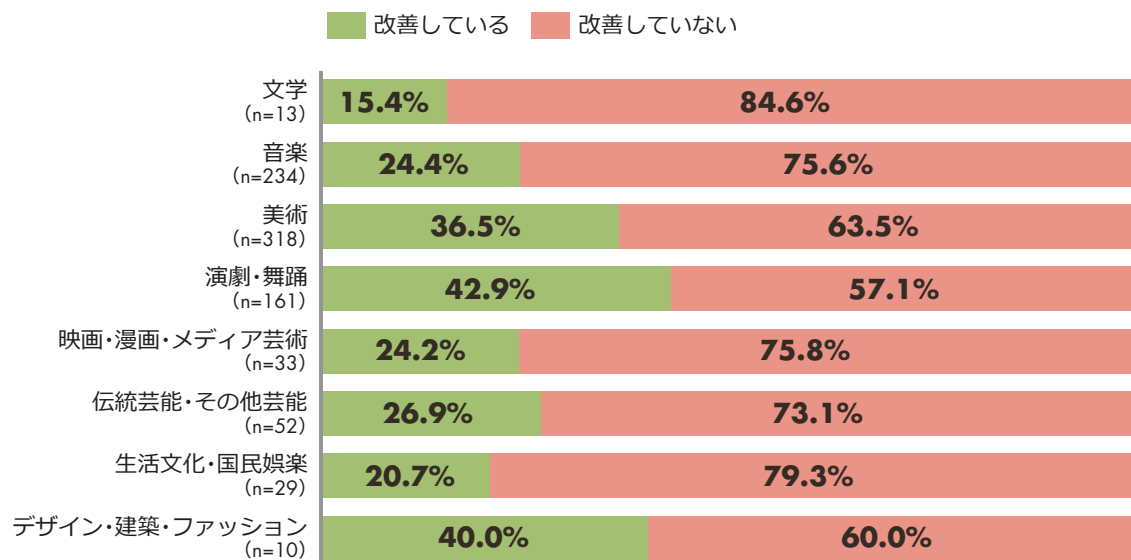
n=1,154

## 現時点で収入が 改善しているか

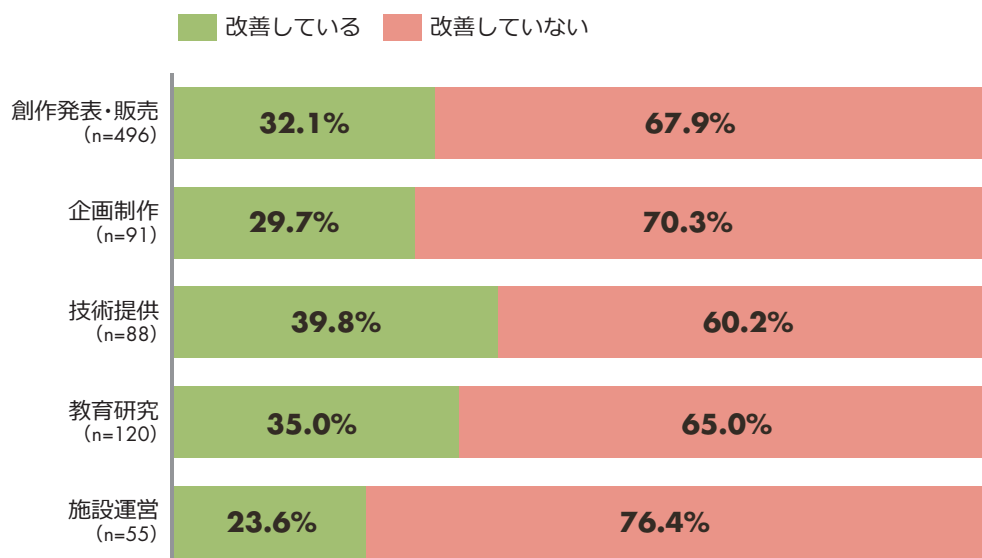


n=850

## 現時点で収入が改善しているか〈表現分野別〉

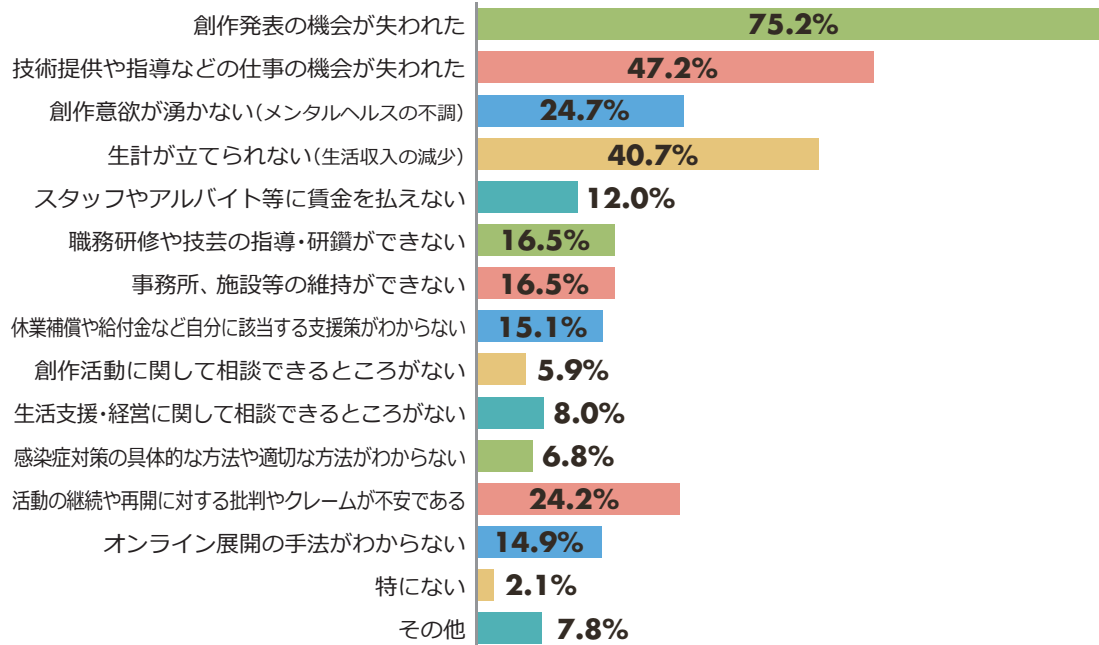


## 現時点で収入が改善しているか〈業務分野別〉





## 現在困っていること

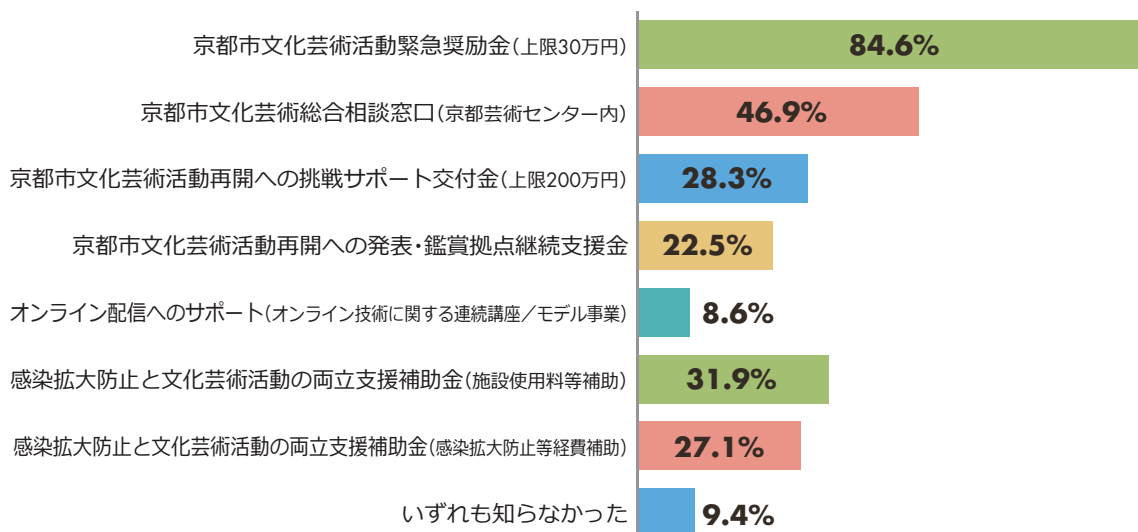


n=1,154

「現在、困っていること」の「その他」自由記述は90件あり、内訳としては、「移動に制限がかかっている」「調査研究・資料収集が難しい」のように活動場所・機会を失ったことに関するもの(20件)、「制作したいが、資金不足」「会場がキャンセルできず赤字」などの金銭的な不安に関するもの(12件)、そして「持続化給付金で現在はまだ大丈夫だが、この状態が続くとどうなるか不安になる」のように先の見通しが立たないことへの不安(12件)が目立った。また来場者数の減少に関する声(8件)や、関係者とのつながりを失ったこと(6件)、活動場所・機会を失う不安(6件)のほか、「現在会期中の展示もいつ終わるか、次の展示も行われるのかわからない中制作をしなければいけない」「全てのことに對して2、3通りの想定をしなければいけない」「風評被害」「支援金や奨励金の事後処理や会計処理が大変」といった回答もあった。

京都市が行う文化芸術活動の7つの支援プログラムのうち、このアンケートに回答する以前から知っていたものは、「京都市文化芸術活動緊急奨励金」が85%で最も多く、「京都市文化芸術総合相談窓口」が47%、「感染拡大防止と文化芸術活動の両立支援補助金(施設使用料等補助)」が32%となっている。

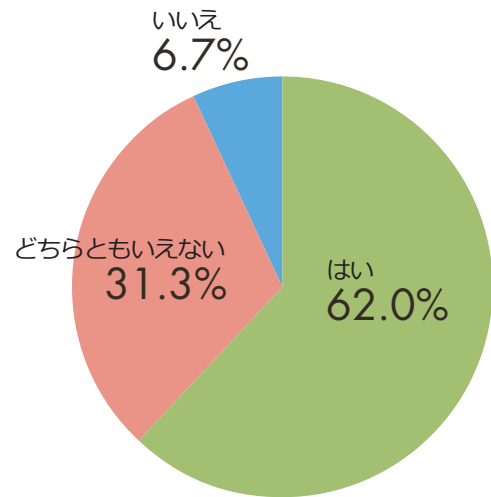
## 京都市の支援プログラムの周知について(知っていたもの)



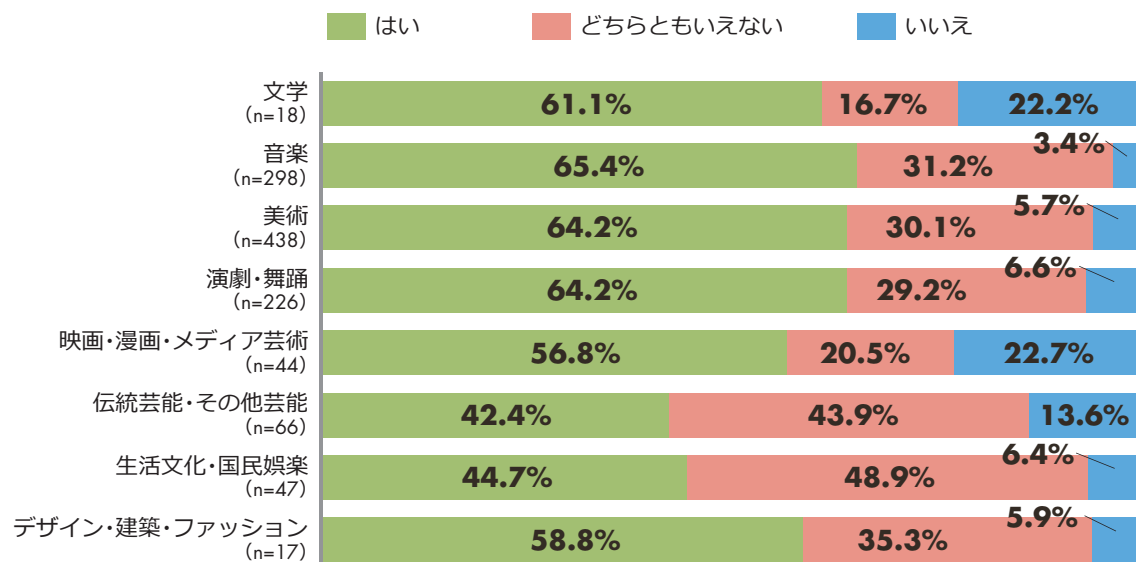
n=1,154

京都市が行う文化芸術活動の支援プログラムは希望する(必要とする)支援と合致していたかを聞いたところ、「はい」が62%、「どちらともいえない」が31%、「いいえ」が7%となった。また、京都市の支援プログラムは、あなたの文化芸術活動の継続または再開につながったかを聞いたところ、「はい」が71%、「どちらともいえない」が25%、「いいえ」が4%となった。

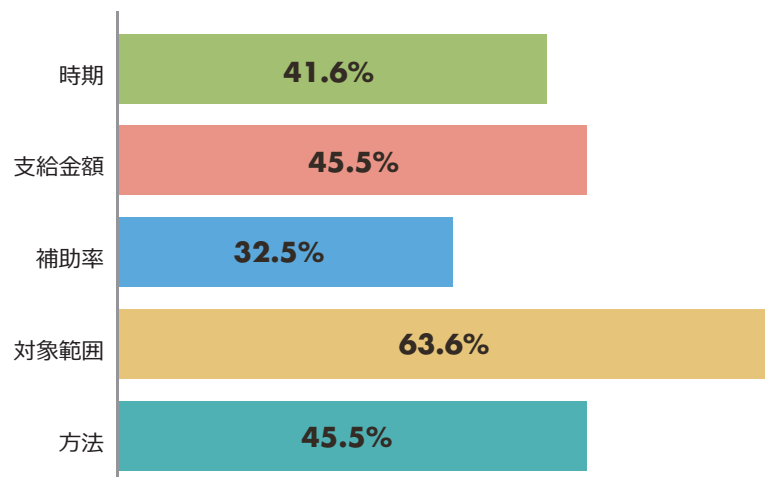
## 希望する支援内容との合致



## 希望する支援内容との合致〈表現分野別〉

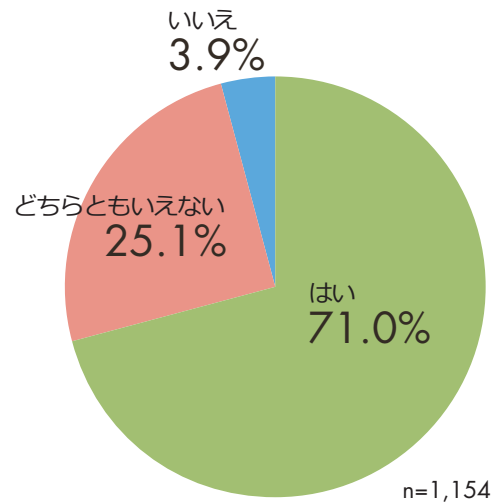


## 合致しなかった理由

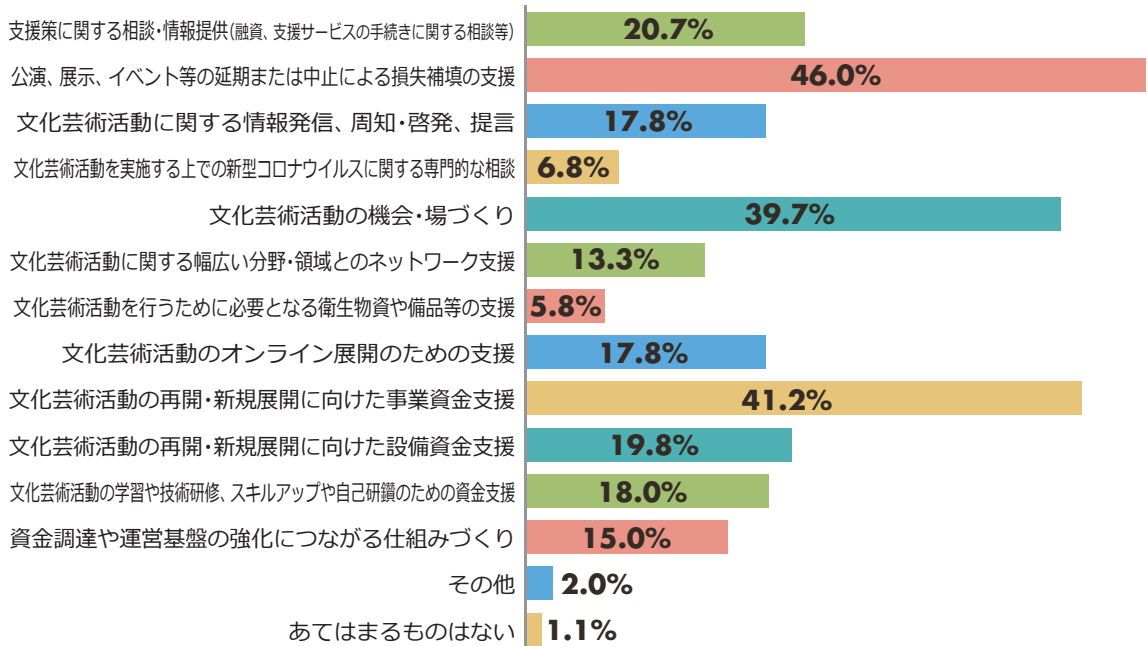


n=77

## 支援プログラムは 活動再開につながったか

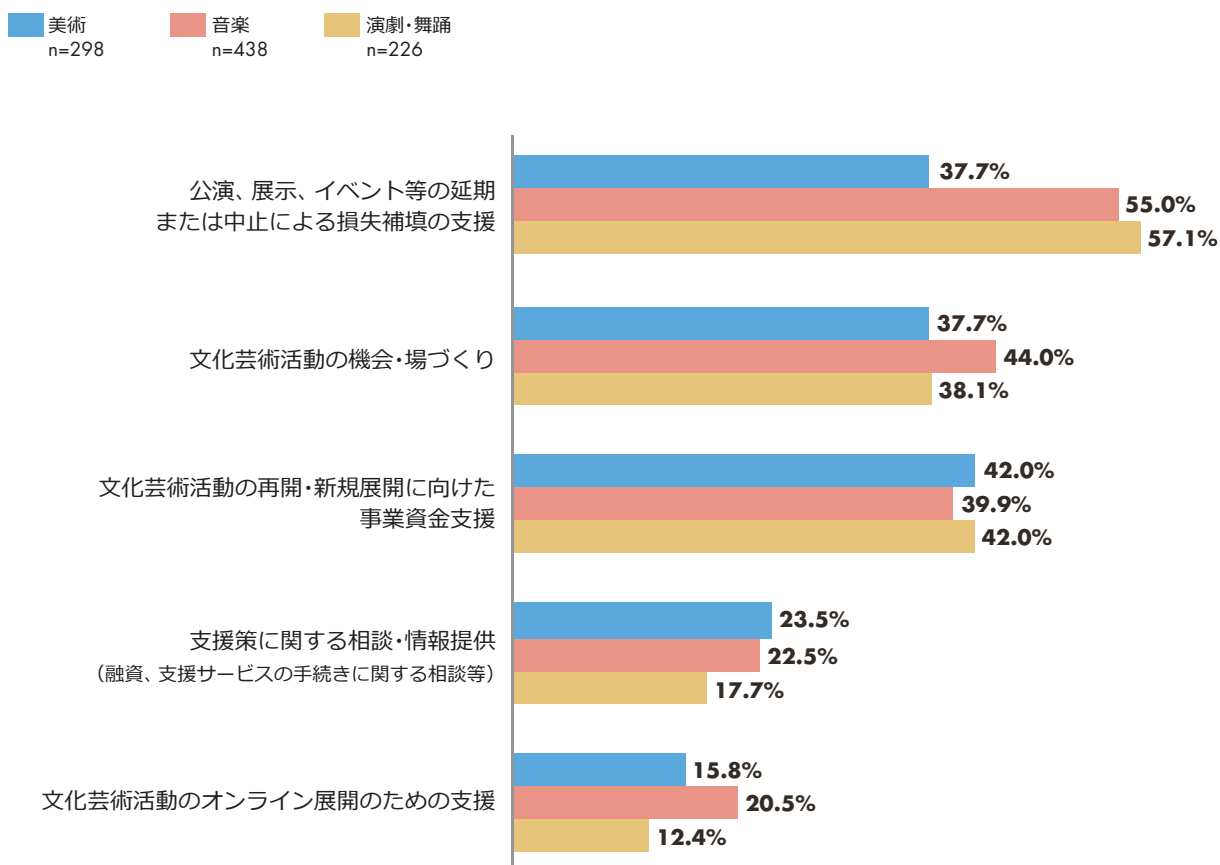


## 現状において、どのような支援が必要か



n=1,154

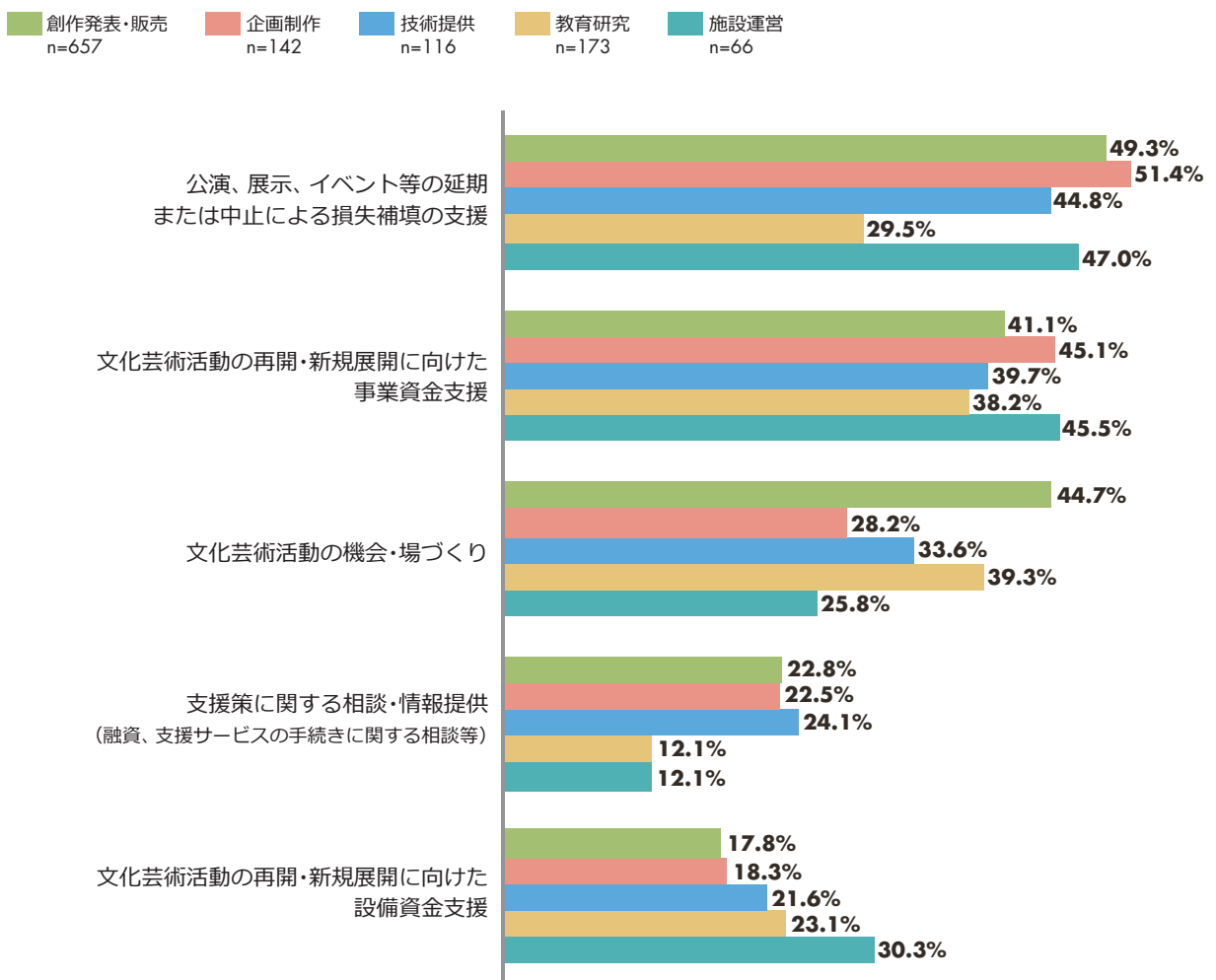
## 現状において、どのような支援が必要か〈表現分野別〉



必要とする支援については、表現分野のうち、一定の回答数が得られた「美術」、「音楽」、「演劇・舞踊」の区別で見ると、「演劇・舞踊」と「音楽」では「公演、展示、イベント等の延期または中止による損失補填の支援」が過半の割合となっている。

業務分野別で見ると、「企画制作」では「公演、展示、イベント等の延期または中止による損失補填の支援」が過半の割合となっている。

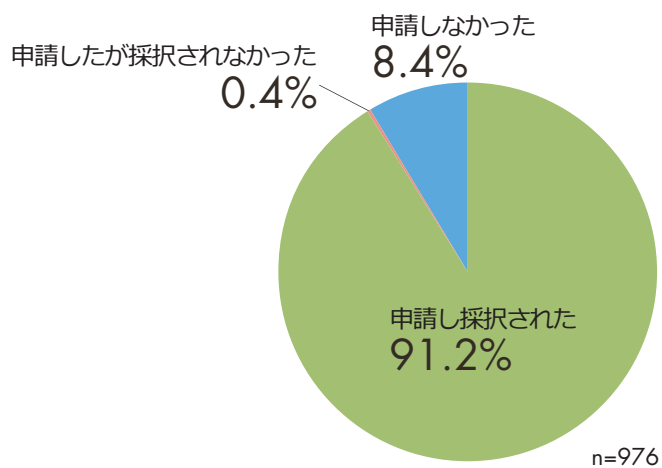
## 現状において、どのような支援が必要か〈業務分野別〉



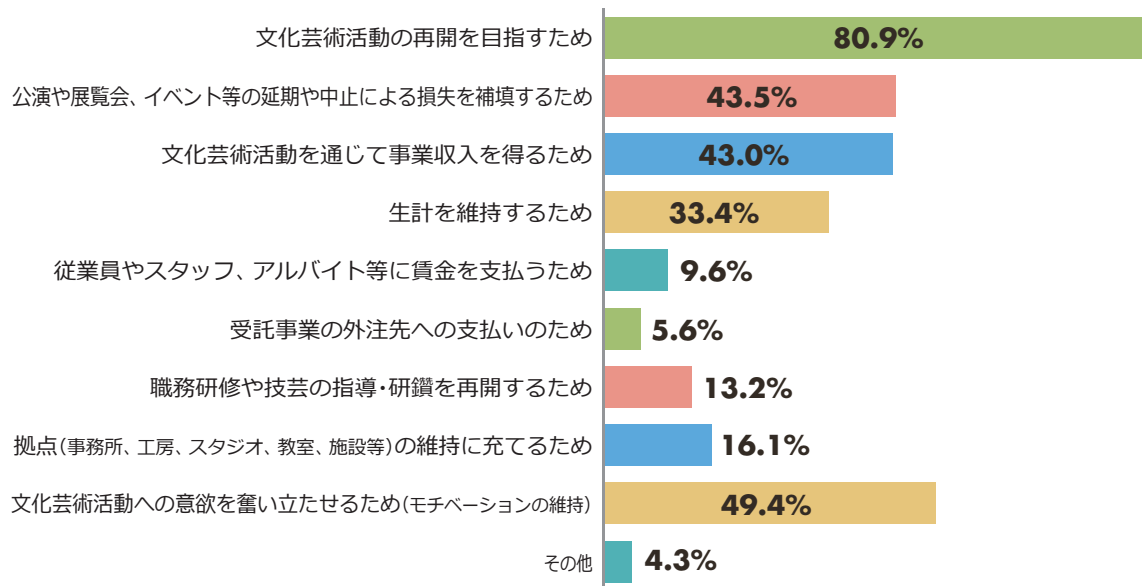
## 京都市文化芸術活動緊急奨励金について

「京都市文化芸術活動緊急奨励金」を知っていた回答者に聞くと、「申請し採択された」が91%、「申請しなかった」が8%で、申請した理由は「文化芸術活動の再開を目指すため」が81%、「文化芸術活動への意欲を奮い立たせるため(モチベーションの維持)」が49%、「公演や展覧会、イベント等の延期や中止による損失を補填するため」が44%、「文化芸術活動を通じて事業収入を得るため」が43%となっている。

### 申請したか

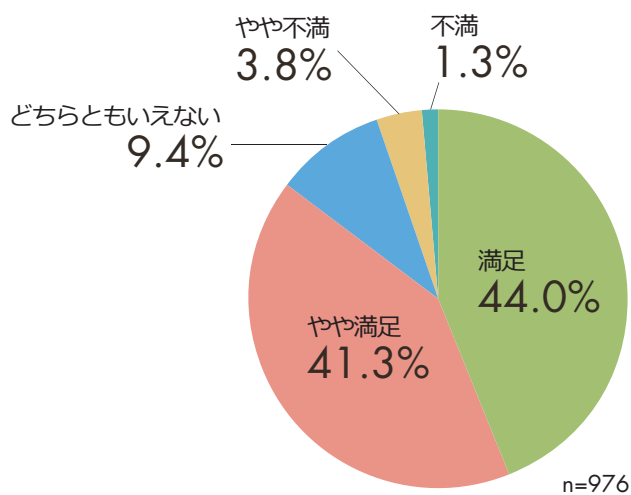


## 申請した理由



n=894

## 満足度



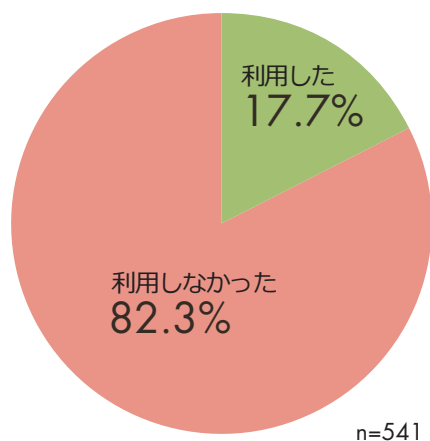


「京都市文化芸術活動緊急奨励金」以外の支援プログラムについて、それぞれ認知していた回答者に利用または申請の有無について聞いたところ、「京都市文化芸術総合相談窓口」を「利用しなかった」は82%、「利用した」が18%、「京都市文化芸術活動再開への挑戦サポート交付金」は「申請しなかった」が79%、「申請したが採択されなかった」が17%、「京都市文化芸術活動再開への発表・鑑賞拠点継続支援金」は「申請しなかった」が79%、「申請し採択された」が19%、「オンライン技術に関する連続講座／モデル事業」は「参加しなかった」が75%、「参加した」が25%、「感染拡大防止と文化芸術活動の両立支援補助金（施設使用料等補助）」は「申請しなかった」が73%、「申請した」が27%、「感染拡大防止と文化芸術活動の両立支援補助金（感染拡大防止等経費補助）」は「申請しなかった」が84%、「申請した」が16%となった。

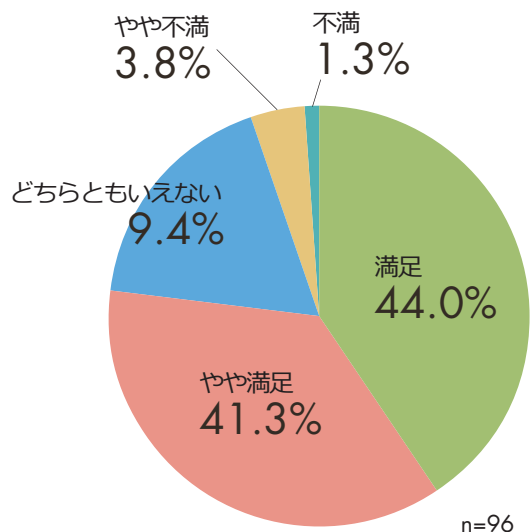
7つの支援プログラムの満足度については、回答数（採択、または利用した回答者数）に差があるために比較に留意すべきだが、満足層（「満足」+「やや満足」の割合）の多い順に、「京都市文化芸術活動再開への発表・鑑賞拠点継続支援金」（回答数49）が満足層86%、「京都市文化芸術活動緊急奨励金」（回答数890）が満足層85%、「京都市文化芸術総合相談窓口」（回答数96）が満足層85%、「京都市文化芸術活動再開への挑戦サポート交付金」（回答数16）が満足層81%、「感染拡大防止と文化芸術活動の両立支援補助金（感染拡大防止等経費補助）」（回答数51）が満足層69%、「感染拡大防止と文化芸術活動の両立支援補助金（施設使用料等補助）」（回答数99）が満足層61%、「オンライン配信へのサポート（オンライン技術に関する連続講座／モデル事業）」（回答数25）が満足層52%となっている。

## 京都市文化芸術総合相談窓口について

### 利用したか

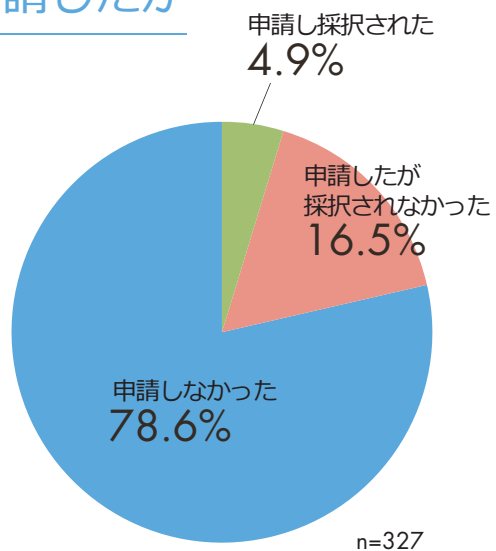


### 満足度

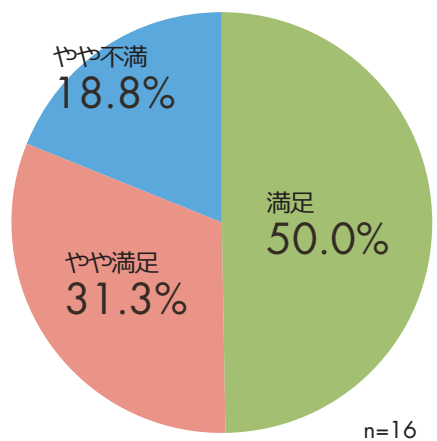


## 京都市文化芸術活動再開への挑戦サポート交付金について

### 申請したか

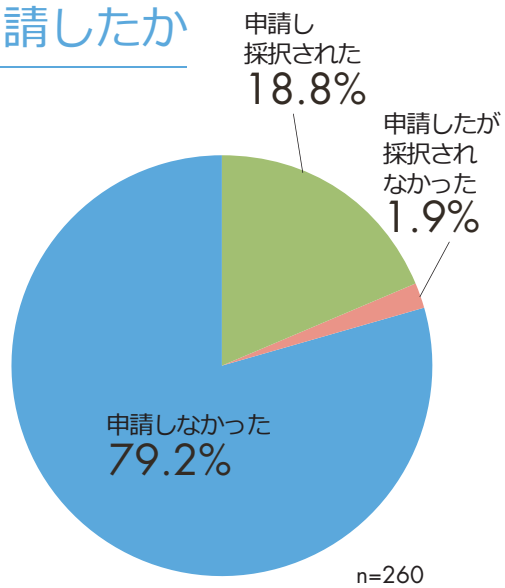


### 満足度

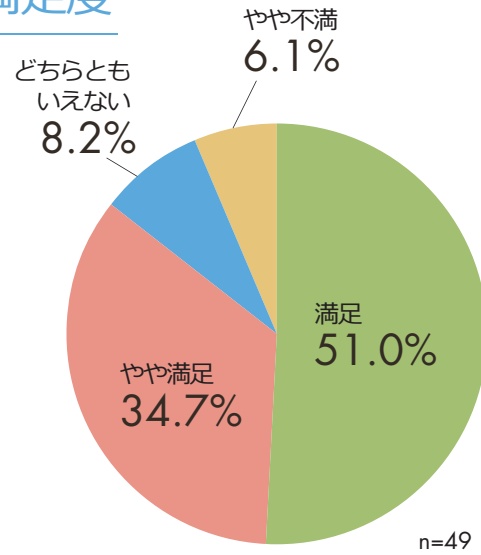


## 京都市文化芸術活動再開への発表・鑑賞拠点継続支援金について

### 申請したか

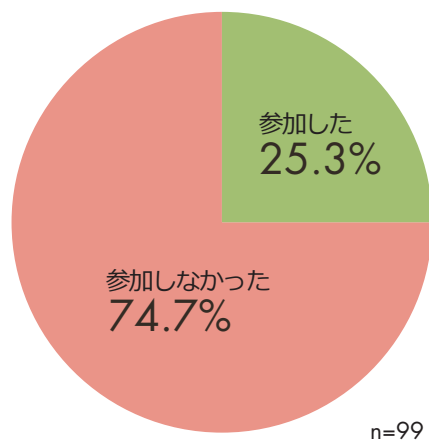


### 満足度

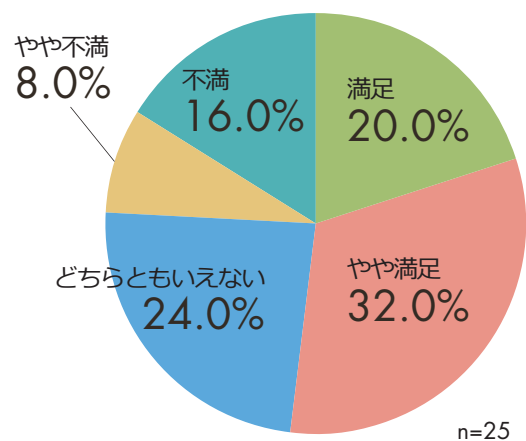


## オンライン配信へのサポート(オンライン技術に関する連続講座/モデル事業)について

### 参加したか

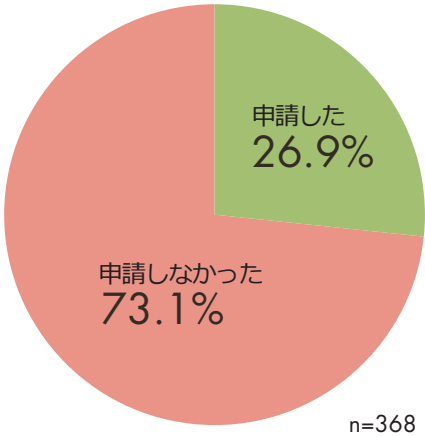


### 満足度

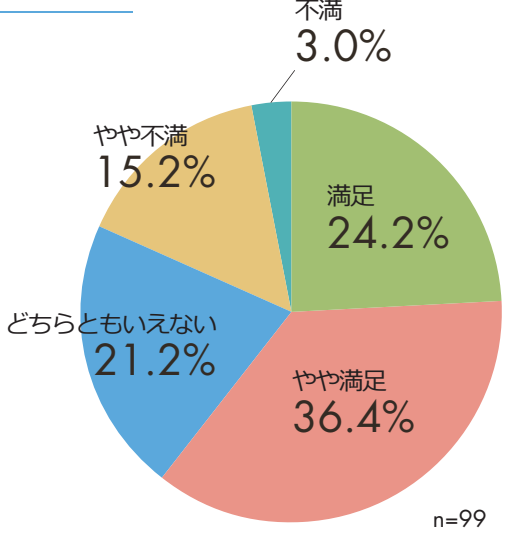


感染拡大防止と文化芸術活動の両立支援補助金(施設使用料等補助)について

申請したか

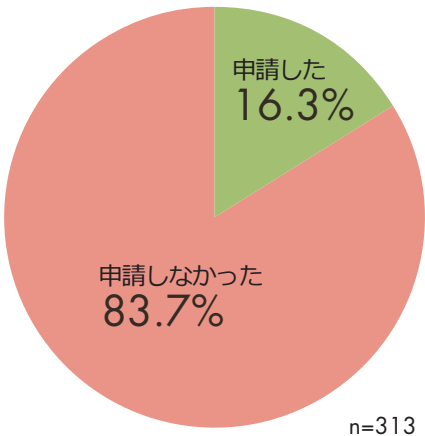


満足度

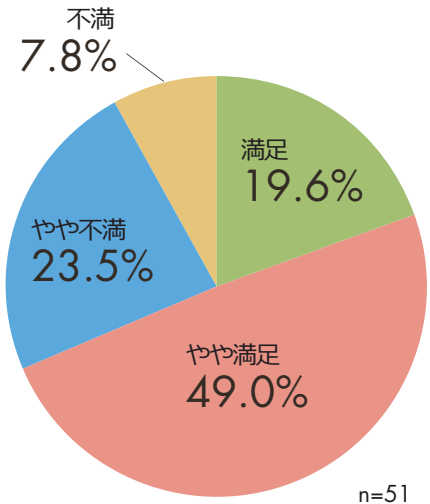


感染拡大防止と文化芸術活動の両立支援補助金(感染拡大防止等経費補助)について

申請したか



満足度



京都市の文化芸術支援策に関する意見を求めた自由記述は、421件の回答があった。内容により分類し、紹介する。

### 1. 今回の支援策に関するもの

#### 継続的な支援の要望

公演の延期の再延期が今年に入って何件も出てきています。再来年くらいまでは見通せるような支援制度のご提案を頂けるとありがたいです。

一過性に終わらず、芸術と(広義の)社会を結び合わせるための継続的な支援が必要と思います。

アーティストはもとより、活動場所などへの支援も一回だけでなく、何度でも行ってほしい。

#### 支援策への感謝等

コロナ禍で芸術活動で収入がゼロになり先行きの不安や生活費への不安のため、活動もここまでかと諦めかけましたがこの支援のおかげで諦めないでよかったとおもえることができました。

コロナ禍初期のタイミングで使い勝手の良い奨励金をいただけて、とても助かりました。周囲の芸術関係者の評判も高かったです。

今回のコロナ禍の支援では幅広くアーティストが応募できるような工夫や努力を感じ、その点がとても良いなと思いました。

## 支援策への使途、対象、手続き等の要望

京都市の支援金は、使用用途などが文化庁や京都府に比べ、自由度が高く、大変評価しています。

文化芸術を継続するためには、その下支えとなる生活が成り立ってないと難しいです。小笠原財団が行った支援のように、使途を問わない支援金が必要です。

スタジオ家賃などの固定費への支援も考慮して欲しい。

先に自己負担で資金を調達しての一部支援は受けにくい人が多いようです。

新たな事業を、それもこの状況下で短期間に立ち上げないといけないのは大変でした。(略)実績に基づいた長期的な支援をお願いしたいです。

誰にでもわかりやすい、広い告知があると助かると思います。

長期化に対応できる力をつけたいので相談、提案など受けることができたら嬉しいです。

奨励金や持続可能給付金が確定申告の際どう関わるかという経理上のフォローがほしいです。

給付決定などもう少し迅速だと助かります。予算と人員を増やして、現場労働者を増やして(適切に給与も支払って)、迅速化して欲しい。

ネット環境が整っていない為、提出物の必要資料を送って頂きたい。

今回、色々な補助事業にあたってみましたが、提出のしやすさは京都市の文化芸術活動の助成金でした。早々に原本提出ではなくオンライン提出にもなっていましたし、その点はとても良いと思いました。

取りこぼされがちな任意団体への支援があるのがよかった。

固定経費が多くかかる法人に対する補償が必要。

## 2. 今後の京都市の文化政策に関する意見

創作活動を行っていく上での感染対策方法、予防の工夫などの情報共有があると良いように思う。  
判断と責任が個人や主催者にのしかかっており、精神的負担も増えている。

動画制作やオンライン展開について公開学習できるような機会。

芸術家同士や他の分野の方(オンライン技術者等)との交流やネットワークで相互協力や学び活かせる機会。

市内、地域内にどのような活動をしているどのような芸術家が存在しているのかを、広く一般の人に知らせる機関・機関紙があって希望する芸術家が登録できるといい。

何かを企画して行うものに対する補助ではなく、単純に去年と今年の売り上げを比較して減収に対する補助支援。

直前に仕事がなくなる、技術スタッフへの(企画が必要ではない)補填的な助成。

展覧会など中止になったとき、準備に使った費用(ポスター、チラシなど)の費用。

感染対策のため集客が制限されるのであれば、その分の財政的補填。

期間限定でもいいので京都市が所有していて使用していない建物などを制作室として安価に解放すること。

オンライン配信が公共施設からできるようにwifi設備を充実。

京都市の音楽演奏披露場所ライブハウス等がかなり閉業、倒産しています。支援策をお願いします。

映画分野においてはとにかく現場の数が激減しております。(略)ミニシアターの支援含めて、考えて頂ければと思います。

いまの助成レベルが基礎としてあることが、文化都市を標榜する上では望ましいように思える。

中長期的には、新たな視点での積極的な取り組みへの評価、期待を込めた支援が必要となってくる。例えば、文化芸術以外の分野とのネットワークを構築したり、新たな知見を深め、業界を安定的で持続可能な「体力のある」環境に導く取り組みへの支援も必要。

京都で活動するアーティストを増やすのではなく、活動している全国のアーティストが集まってくる都市を作って欲しい。そうでなければ京都は狭い世界のまま続くだけになる。

### 3. その他

感染症拡大による損失については、決定していた仕事中止になるだけではなく、関西圏の美術館の休館に伴う展示設営の業務など、潜在的に失った仕事もあったと思う。このようなことも知っておいていただきたい。

法人なので所属する個人への報酬は支給しているが、売上は激減しているので法人を維持できるかわからない。

自分が芸術活動をしているかどうかはわからなくなってきて辛い。不要不急といわれるのが、一番つらい。

京都在住の芸術家同士の交流の場が今まであまりなかったため、縦も横のつながりも薄いように感じられる。芸術家は1つの分野に特化している為、芸術家以外の方たちも含めた情報交換の強化でもっと発信できる方法を模索したい。



新型コロナウイルス感染症の影響は、国内はもとより、世界的にも文化芸術の振興に大きな影を落とした。この影響は京都市も同様で、数多くの発表、制作、あるいは芸術関係者の仕事が失われた。それにより、文化芸術に従事する方々の生計に多大な影響をきたしたのみならず、創作意欲の低下やメンタルヘルスの不調など、アンケート調査の結果には、先行きの見えない状況への不安や苦しみが表れている。

京都市では、2020年4月以降の緊急事態宣言に伴う芸術家等への支援策として、「緊急奨励金」を手掛かりに、「ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディング」や「文化芸術活動再開と感染防止の両立支援」など、様々な支援策を展開された。それら支援策への満足度を問う調査では、支援策全体で「活動継続・再開に繋がった」という回答が7割を超えるなど一定の役割を果たしたものの、「ポイント」で示した通り、損失額や現在困っていること等の調査結果を第1回目と第2回目と比較しても、引き続き困難な状況は続いており、本調査結果を踏まえた継続的な支援が期待されている。

来るべきポストコロナ社会に向け、文化芸術が社会にどのように在るべきか、また公的支援をどのようにシフトチェンジするべきか、文化政策は岐路に立たされている。2回にわたり実施した本アンケート調査からは、芸術家が活躍できる場や機会を生み出し、担い手のモチベーションを高めるための施策が、今まで以上に望まれていることが明らかである。

京都芸術センターとしては、京都市と共に、緊急奨励金時に相談窓口を担当したHAPS、ロームシアター京都、京都コンサートホールといった市内の核となる施設・団体と今後も連携を密にし、芸術家や文化芸術の従事者が置かれた状況について情報収集し、刻々と変化する「気づかれざる」ニーズをとらえた、半歩先をいく支援につなげていきたい。

京都芸術センター



アンケートへのご協力  
誠にありがとうございました。

問合せ先

**京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課**

〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地

Y・J・Kビル2階

TEL : 075-366-0033

FAX : 075-213-3181

**京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)**

TEL : 075-213-1000

E-mail: [info@kac.or.jp](mailto:info@kac.or.jp)